相談支援事業実施実績報告書　兼　検証・検討シート　　（令和７年度）

事業所名　障害者生活支援センター　　相談員　3　名

１．数値実績（※福祉行政報告例；国への報告様式）

【相談支援を利用している障がい者等の人数】　　※計画相談を利用している方の相談内容は含まない。（委託相談の中で対応した内容について報告すること）

	実人数	身体障がい	重症心身障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	高次脳機能障がい	その他
障がい者	164	49	1	22	64	11	2	15
障がい児	7	1	0	3	0	1	0	2
計	171	50	1	25	64	12	2	17

【支援方法】

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール相談	オンライン相談	個別支援会議	関係機関（協働）	その他	計
件数	163	200	66	1530	194	1	2	1292	31	3479

【支援内容】

	①福祉サービスの利用等に関する支援	②障がいや病状の支援に関する支援	③健康・医療に関する支援	④不安解消・情緒安定に関する支援	⑤保育・教育に関する支援	⑥家族関係・人間関係に関する支援	⑦家計・経済に関する支援	⑧生活技術に関する支援	⑨就労に関する支援
件数	1549	48	291	44	2	16	112	129	79

	⑩社会参加・余暇活動に関する支援	⑪権利擁護に関する支援	⑫その他	計
件数	44	8	36	2358

【相談者】

本人	家族・親戚								関係機関等	その他
	両親	父	母	配偶者	きょうだい	子	祖父母	親戚		
609	1	12	116	10	52	1	0	25	1341	20
	217									

【計画相談・セルフ補助】

計画相談作成対象者数	計画相談対応のべ件数	セルフ補助対応実人数	セルフ補助対応のべ件数
54	1812	1	15

２．数値実績（委託業務に係る実績値）

事業項目	件数	主な取組内容など
(1) 福祉サービスの利用援助（情報提供、相談等）	1513	障害福祉サービス・地域生活支援サービスの利用に関すること（サービスの説明、見学同行、申請手続きの支援、事業所との調整、サービス利用後の状況確認や内容の見直し等）施設見学同行、居宅介護サービス調整、契約同行、セルフプラン作成補助など
(2) 社会資源を活用するための支援（各種支援施策に関する助言・指導等）	112	障がい者手帳、自立支援医療、障害年金に関する手続き調整、同行支援、通院同行、医療機関との連絡調整など
(3) 社会生活力を高めるための支援	592	公共料金の支払い、銀行手続き、各種手続きに関すること、通院同行、医療機関との連絡調整、ゴミの分別や家事についての相談、引っ越しに関する相談、就労・定着に関する相談、金銭管理の相談、生活の困りごとに関する相談、ライフラインの相談など
(4) ピアカウンセリング	1	脳卒中についてのピアカウンセリングの相談など
(5) 権利の擁護のために必要な援助	34	土地や相続、借金、家計管理の相談、虐待の相談、成年後見支援制度に関する相談、あんしんセンターに関する相談など
(6) 専門機関の紹介	3	デイケアの紹介・同行、ハローワークの紹介・同行、就労援助センターの紹介・同行など
(7)一般住宅への入居支援等	10	アパート退去を迫られている利用者への対応や転居支援等
(8) 上記以外の相談	45	不安解消、傾聴、利用者自身の子育てや高齢の親についての相談、専門機関の紹介など
(1)～(8)の合計	2310	
(9) 自立支援協議会に関する業務	31	湘南東部圏域自立支援協議会、代表者会議、運営会議、就労支援部会、相談支援部会、くらしの基盤強化部会開催
(10) 地域生活支援拠点等の整備に関する業務	4	地域生活支援拠点プロジェクト出席
(11) 地域のネットワークづくりに関する業務	28	地区民児協定例会、ＣＳＷ主催ネットワーク会議、地区ボランティアセンター会議、地区社協役員会など

３．数値に関する注記欄（取組がないもの等の理由を記載）

４．相談の傾向や課題、その他の取組状況など

相談の傾向
・相談者の障害種別としては、精神障害が最多、次いで身体障害、知的障害の順だった。その他については未診断の方など。
・障害福祉サービス利用支援のほか、必要に応じて医療機関や施設等への同行支援、緊急対応の支援なども含め広く相談に対応した。
・中重度の方を対象とした施設やグループホームに入所/入居したものの、入所/入居後に課題が生じ、本人や家族、関係機関のフォローが継続して必要なケースも多い。
・キーパーソンとなる方が不在もしくは遠縁、判断力が難しいなど、世帯全体としての課題がある家庭が増えている印象がある。
・複雑性PTSDや鬱の方など、傾聴や心理的な関わりを求めての相談も引き続き多い。
・高齢の親の怪我や体調不良などにより障害のある子どもが取り残され、ギリギリの状態で緊急対応を行わざるを得ないケースも引き続きある。
・緊急時の短期入所受け入れ先を心配される当事者、ご家族は多くいる。地域生活支援拠点の機能の充実が求められている。

課題
・転居や諸手続き、院内付き添いや同行、ゴミ屋敷状態になった世帯の片づけなど、制度のはざ間をどのようにして埋めていくかは課題である。
・引っ越しや財産処分、虐待の疑い、受診同行、利用者の家族の受診対応など、世帯ぐるみの支援を相談員が担うことも引き続きあり、
　日ごろからの多職種連携、チームアプローチの構築が必要である。
・薬物依存などの触法ケース等、障害分野以外のサポートが必要なケースも増えており、多問題ケースについての情報や課題の整理が必要である。
・不適切介護など、虐待の恐れがあっても顕在化していないケースもあるのではないかと懸念される。相談員の質と量の担保が必要である。
・「有事に備えた繋がりの維持」「問題発生時の対応」が主な関与の目的になりがちで、生活の質を高める支援や、前向きな自己実現の支援を求める利用者の期待に
　　応えきれていない状況が生まれている。
・金銭管理や金銭トラブル、病識がない方などの相談も増えており、介入や課題解決に時間を要したり他職種との連携が必要なケースも多くある。

＊その他の取り組みの状況（自発的活動支援事業）など
・茅ヶ崎市精神保健ボランティア推進委員会を４回開催し、「精神保健ボランティアのことがよくわかる！当事者、ボランティアからの体験談講座」を開催した
　（受講生21名、推進委員11名、ボランティア2名、ピアサポーター3名参加）。
・Cigogne（市内にあるテイクアウト専門のフランス料理店）に講師を依頼し、障がいのある高校生以上の方を対象として、自立に向けたスキル習得を目的に料理教室を開催した
　（参加者9名、付き添い2名、ボランティア3名）。
・当事者の集いの場・仲間づくりの場の提供としてボランティアグループ小さな手が開催する「サロンよりみち」のバックアップを行った（１２回開催）。
・第5回精神保健ボランティアパートⅡ修了生と、就労継続支援B型事業所が作成する「茅ヶ崎・寒川　精神保健関連施設マップ」の作成・配布にあたり印刷代の負担、
　　情報提供、振分け作業等への支援を行った（2,800部作成）
・「くらしの基盤強化部会」の事務局を担当し、「親の支えを卒業した後・障がい版8050問題～自分で選び、自分で生きる力を～」関連事例集を作成した。

５．委託相談支援事業所による自己評価

項目	自己評価
(1) 福祉サービスの利用援助（情報提供、相談等）	障害福祉サービス、地域生活支援サービスの利用に関して、幅広く相談を受け、サービスの説明、情報提供、見学同行、申請手続きの支援、事業所との調整、フォロー相談、セルフプランの作成補助など幅広く相談を受け、対応した。障害福祉サービスの利用については、利用者の方一人一人の希望や状況に合わせて調整をする必要があり、丁寧なアセスメントを行い、きめ細かくできるだけ迅速に対応するよう務めた。引継ぎが可能であり、定期的なモニタリングなどによるフォローが適切と思われるケースについては、できるだけ指定特定事業所に繋ぐなどしてフォローアップするよう務めている。
(2) 社会資源を活用するための支援（各種支援施策に関する助言・指導等）	自立支援医療、生活保護、年金等の情報提供、申請の同行など幅広く相談を受け、対応した。地域包括支援センター、介護保険事業との連携も行っている。平時、緊急時も含め、医療機関との調整や送迎も含めた付き添い同行支援も多い。キーパーソンが不在、一人では受診が難しい、医療機関の説明の理解が難しいといったケースは制度の狭間の課題となっており、世帯ぐるみでの支援が必要なケースもある。
(3) 社会生活力を高めるための支援	料金や家賃の支払い方法が分からないケース、困窮のため滞納しているケースなど、電気、ガス、水道、住まいなどインフラを守るための支援、体調管理、服薬管理、不動産の同行や情報収集と相談、就労先での悩み、就労支援、自己破産、金銭管理、銀行の手続き同行など幅広く対応した。

(4) ピアカウンセリング	脳卒中で復職した方のピアカウンセリングについての相談があり対応したが、希望される情報提供は行えず1回のみの相談となった。相談としては1件のみの対応となったが、自発的活動支援事業で行った「精神保健ボランティアのことがよくわかる！当事者、ボランティアからの体験談講座」に於いてピアサポーター3名の方に体験談を行っていただき好評を得ている。
(5) 権利の擁護のために必要な援助	成年後見支援制度、あんしんセンターの紹介、金銭管理、自己破産等についての相談に対応している。経済的、精神的、身体的虐待が疑われる件についても把握し、必要な機関に繋ぐ、フォローするなどの対応を行った。介護者の判断力に懸念があるケース（不適切介護が疑われるがその認識がない方など）、支援の必要性を理解いただくことが難しいケースなどは介入に苦慮しており、複数の支援機関で関与するよう心がけている。
(6) 専門機関の紹介	ハローワーク、就労援助センターの情報提供、同行支援、年金申請の同行など幅広く対応した。情報を入手したり一人では手続きに行くことが難しい方も多く、対応している。
(7)一般住宅への入居支援等に関する業務	不動産情報の提供、内見同行、不用品処分、引っ越し作業、転居に伴うサポート体制の構築などの支援を行った。件数として多くはないが、入居支援が必要になった際には多種多様なサポートが必要であり、相談員が抱えるのではなく、平常時からのチームアプローチが非常に重要である。
(8) (1)～(7)以外の相談	近隣トラブル、ストレス解消のための傾聴、人間関係の悩み、家族についてなど幅広く対応した。解決方法が見つからない内容や、相談が長時間に渡ることも多いが、必要な支援であると受け止め、対応している。
(9)自立支援協議会に関する業務	湘南東部圏域、代表者会議、運営会議、地域生活支援拠点等プロジェクト、相談支援部会、就労支援部会など幅広く参画した。また、「くらしの基盤強化部会」の事務局を担当し、「親の支えを卒業した後・障がい版8050問題～自分で選び、自分で生きる力を～」関連事例集を作成した。障害者保健福祉計画への提案なども行ったが、抽出された地域課題が解決に至らないことが多く課題は山積している。話し合いにとどまらず、課題解決に向けてより踏み込んだ具体的な取り組み、施策が実現されることが必要であると感じている。
(10)地域生活支援拠点等の整備に関する業務	地域生活支援拠点等プロジェクトに出席した。緊急時の対応等も随時行っている。地域生活支援拠点の制度についての浸透や具体的な支援、利用できるサービスなどの充実が重要である。
(11)地域のネットワークづくりに関する業務	民生委員児童委員定例会、CSW主催ネットワーク会議、地区ボランティアセンター関連会議、地区社協役員会等に出席した。